

熊本県史料 中世編第一

大分・佐賀両県に続き、『熊本県史料』が、県史編纂の一環として刊行されることになった。本巻はその第一巻で、竹内理三氏の責任編集によって県北の四市・四郡の中世史料(細川氏入国の寛永十年まで)七七九通が、次のごとく在地主義・家わけ・編年の様式で詳細な頭註を付して収められている。()内は通数

玉名郡(荒尾市玉名市を含む)、伊倉北八幡宮(一)、同南宮(九)、鹿子木(二四)、願行寺(八)、広福寺(一一八)、小代(九四)、西安寺(四三)、寿福寺(一六)、清源寺(四三)、宝成就寺(一四)、野原八幡宮(一)、鹿本郡(山鹿市を含む)光厳寺(三)、光照寺(四)、金剛乗寺(二)、阿蘇品(二)、菊池郡(菊池市を含む)阿部(三〇)梅田氏所蔵(一)、玉祥寺(一)、合志(五)、正観寺(四〇)、菊池神社(一)宗(一)、怒留湯(一五)、仏教寺(二)安永(一)厳照寺(三)

阿蘇郡 阿蘇神社(一〇)阿蘇(一〇)北里(三四)小橋(二)西厳殿寺(二〇九)、志賀(二)下村(一)高宮氏所蔵(二)満願寺(一五)三井(二)室原(四〇)

以上見ることく、比較的散在史料が多いが、それだけにこのような形で集成されたことは非常に便利である。かつて大日本古文書(阿蘇家文書)に収められた西厳殿寺文書以外は、いずれも未刊史料であり、中には伊倉北八幡宮文書、阿蘇品文書のごとき今回始めて紹介されたものもある。西厳殿寺文書を除けば、何といつても広福寺文書が質量ともに圧巻である。菊池氏関係の中心文書であり、中世武士団の構造、特にその精神的特質などを知る上で好個の史料である。その他小代文書・鹿子木文書なども中世後期の肥後北部の情勢を知る上で貴重なものである。なお八百余通に上る阿蘇家文書は大日本古文書に収められているせいもあって今回は省かれている。

本巻は、文書の在地主義による編纂であるから、これで中世の肥後北部の関係史料が網羅されているわけではない。しかしさいわいに大分・佐賀など近県の史料集が次々に刊行

されているので、これ等を併せ利用することによつて、本巻も一段とその利用価値を高めることが出来る。しかもこれらの史料集が殆ど全て竹内理三氏の編集あるいは監修になつていることは、利用者にとつて極めて喜ばしいことである。

なお熊本県史料中世編は県南部及び中央部の史料が第二巻・三巻として続刊されることである。竹内氏をはじめ熊本大学の杉本・松本両氏、その他編集委員各位・県当局の御努力に敬意を表するとともに、続刊の早らんことを期待して止まない。

(写真四葉 解題十三頁 目次五八頁 本文七六一頁 五〇〇部限定 一、三〇〇円 熊本県総務部発行) (工藤敬一)

丹生郡誌編集委員会編 福井県丹生郡誌

本郡に關しては、明治四二年に山田秋甫氏の編になる約二五〇頁の『丹生郡誌』が刊行されていたが、今回芦原憲明氏を中心とする丹生郡関係者の手によつて、全く新たな装い

の、一二〇〇頁に及ぶ本書が上梓された。

内容は「歴史」(二三〇頁)、「現代社会」

(一九〇頁)、「文化財・民俗・人物」(一八〇

頁)、「地理」(二三〇頁)、「資料Ⅰ、古文書類」

(二三〇頁)、「資料Ⅱ、地理部門」(七〇頁)

の諸篇から成り、末尾に国史と対照された年

表が附されている。「丹生郡の自然と人文の

あらゆる面を過去と現在に亘つて一通り知つ

てもらふ為の一般読物」たるべく簡潔で

「平易な叙述」を意図した編者の配慮が、す

みずみまでゆきとどいているが、その上にな

お、編者が謙虚に、しかし誇らかに述べるよ

うに、歴史篇におけるいくつかの新しい考

説、民俗篇において民謡の楽譜を掲載したと

いう新しい試み、地理篇における地図、写

真、グラフの存分な活用等の特色をもつて、

変化に富む構成に苦心されたあとが窺われ

る。こうした「読ませる郷土史」のほかに、

今一つの大きな特色は、郷土史料の集大成と

いう面にある。四〇〇点を越える既刊・未刊

の古文書と、三七項目に亘る数表を中心とし

て地理関係資料は、研究者にとつても極めて

大きな魅力となつている。

さて大正一五年七月に郡制が廃止されて以

来、郡の行政的な単位性はもとより、地域單
位としての意味も日に日に失われつつある現
状は否めない。本書はそのような事実を認め

つつ、しかもなお郷土としての「わが郡」を

見つめ、「将来子孫に伝えると共に本郡の教

育・産業等の啓蒙の資に充て」んとして、足

かけ六年の歳月を費して編まれたものではあ

る。近年陸続として刊行されるすぐれた地方

史誌中の一雄篇として本書が加わつたことを

慶びたい。(A5版一一五四頁 昭和三五年

一二月 丹生郡町村会発行) (足利健亮)

『史林』バックナンバ

1のお知らせ

◆左証の各号に限り、小數在庫いたしますか
ら、せいぜい御利用下さい。

◆御申込には、定価の他に送料を添えて、必
らず前金にて御願いたします。

◆送料は次の通りです。

定価一〇〇円まで 二〇円

定価一四〇円以上 四〇円

()内は定価

三三巻 一・二・五(各八〇円)

三四巻 一・二合併(一四〇円) 四(一〇〇

円)

三六巻 一・二(各一〇〇円)

三八巻 二・三・四・五(以上各一〇〇円)

三九巻 六(二二〇円)

三九巻 三・四・五(以上各一〇〇円)・六

(二二〇円)

四〇巻 一・五(以上各一〇〇円)・六(二

〇〇円)

四一巻 一・二・三・四・五(以上各一〇〇

円) 六(二二〇円)

四二巻 一・二・三・四・五・六(以上各一